

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380690

研究課題名(和文) 社会問題に関する日英テレビニュースのディスコース分析のためのフレームワークの構築

研究課題名(英文) The Analytical Frameworks for British and Japanese Television News Discourse in the Representation of Social Issues

研究代表者

糟屋 美千子 (KASUYA, Michiko)

兵庫県立大学・環境人間学部・准教授

研究者番号：20514433

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、クリティカル・ディスコース分析のアプローチを用いて、日本および英国の公共放送・民間放送の社会問題に関するテレビニュースを分析し、ニュースのディスコースの言語的要素と非言語的要素によって、現代社会のイデオロギーがどのように構築されているかを多面的に分析した。その結果、イデオロギー分析のための分析視点として、ニュースが何に重点をおいているか、描写される出来事についてどのような因果関係を設定しているか、出来事の登場人物をどのような属性を持つ存在として描いているか、という3つの視点が有効であることがわかった。

研究成果の概要(英文)： This study examines the news discourse of British and Japanese public and commercial broadcasting corporations that reports on social issues. The study uses critical discourse analysis as an approach to decipher ideologies produced by the discourse. Based on a multi-modal approach, it explores various linguistic and non-linguistic elements to reveal what kind of interpretive frameworks for understanding social issues are produced and how they are created by the news discourse. The study identified three perspectives to analyze news discourse: 1) aspects of events given most importance, 2) causal relationships formed in the events, and 3) attributes attached to participants of the events.

研究分野：社会科学

キーワード：コミュニケーション 情報・メディア 社会問題 ディスコース分析 テレビニュース

1. 研究開始当初の背景

現代社会で深刻化する様々な社会問題(教育・医療・労働・貧困・環境など)の背景には、社会問題に関するイデオロギー、具体的には、問題の要因や解決方法などに関する人々の考え方の枠組みがある。マスコミュニケーション研究の分野では、テレビニュースが人々の考え方の枠組みに及ぼす影響の大きさが指摘され、ニュースの偏向性が議論されてきた。そして、ニュースは事実を客観的に語っているようであるが、実際は出来事そのものではなく、意味のある話として作られた出来事の説明であり、社会の出来事を特定の見方から解釈し、それを社会の人々に示し、広めるものであるという指摘がなされてきた。

しかし、従来のマスコミュニケーション研究の分野では、社会問題に関するテレビニュースによるイデオロギー構築について、そのディスコースを微細に検討して、分析の言語的根拠を示した研究はほとんど行われていない。また、テレビニュースは、言語面だけでも、話の展開・語彙・語法など様々な要素が複雑に組み合わされているが、それに加えて、映像などの非言語的要素が相互作用してイデオロギーを構築している。しかし、こうした様々な要素を包括的にみることを可能にする、テレビニュースのディスコースのマルチ・モダリティ分析の研究はこれまで試みられておらず、イデオロギー構築のメカニズムを、言語学的に微細に検討し、さらに映像などの非言語的要素も含めて多面的・多層的に明らかにする研究が求められている。

2. 研究の目的

本研究は、社会研究のための言語分析である、クリティカル・ディスコース分析のアプローチを用いて、社会問題に関する日英のテレビニュースにおけるイデオロギー構築のメカニズムを多面的に分析し、社会問題に関する現代社会のイデオロギーが、テレビニュースのディスコースの言語的要素・非言語的要素により、どのように構築されているかを解明することを目的とした。

クリティカル・ディスコース分析は、ディスコースに言語のみでなく視覚イメージなども含めた上で、ディスコースを社会生活の要素ととらえ、ディスコースは社会の他の要素と密接に関係しており、社会的に決定されるだけでなく、社会的・政治的・認知的・倫理的・物質的な影響力を持つ、という考えに基づいている。そして、ディスコースを詳細に分析することで、社会における人々の知識・信念・態度・価値観などがどのように作られているかを解明し、それらの教え込み・維持・変容の結果生じている社会的不平等や矛盾など、社会の問題点を明らかにし、解決していくことを目的としている。

このように、社会的問題に対して、異分野と考えられてきた言語分析の手法を用いる

ことにより、これまでのマスコミュニケーション研究では十分でなかった、言語に表れた具体的な根拠を示した分析をすることができると。また、言語の分析のみでなく、言語的要素と非言語的要素との関係も合わせてみることで、包括的な根拠を示した分析が可能となる。本研究は社会学における、社会問題に関するテレビニュースのイデオロギー分析に新たな視点をもたらすことを目指したものである。

3. 研究の方法

(1) データの収集・要素の抽出

データとして、日本と英国の公共放送と民間放送のテレビニュースを用いた。日英のニュースを録画し、録画データの中から、社会問題に関する報道を行なっているニュースを選択した。録画記録をもとに、アンカー・レポーター・ニュースリーダー・インタビューの言葉などの言語的要素、映像などの非言語的要素を書き起こし、スクリプトを作成した。文字起こしについては、適宜漢字かな混じり文とし、句読点を挿入した。

スクリプトをもとに、クリティカル・ディスコース分析を中心としたディスコース理論やメディア理論に沿って検討を行ない、イデオロギーを構築していると考えられる要素を抽出し、それらの要素を分類・整理し、体系化した。

(2) ニュースの分析・日英比較

抽出された要素に沿って、テレビニュースの言語的・非言語的要素の相互作用によるイデオロギー構築のメカニズムを検討した。第一段階として、社会問題に関する日本のテレビニュースを分析し、ニュースの言語的・非言語的要素により、社会問題に関するイデオロギーがどのように構築されているかを検討した。第二段階として、社会問題に関する英国のテレビニュースを分析した。第三段階として、日英のニュースにおけるイデオロギー構築の仕組みを総合的に検討し、その分析のフレームワークを整理した。

4. 研究成果

日英の公共放送と民間放送の社会問題に関するテレビニュースのディスコースの分析を行った結果、日英のニュースともに、イデオロギーを構築している要素として、社会問題のどのような側面が取り上げられているか、また取り上げられていないかという情報の選択、ニュースの話の展開、特定の見方を表していると考えられる語彙および語法などの言語的要素と、映像などの非言語的要素が抽出された。そして、社会問題についてのイデオロギー、すなわち考え方の枠組みは、これらの言語的・非言語的要素の相互作用によって構築されており、その分析のためには、これらの諸要素を総合的に検討することが必要であることがわかった。

ニュースにおける、これらのディスコースの要素の相互作用によって、社会問題に関するどのような考え方の枠組みが、どのように構築されているかを読み取るのは複雑な作業である。この複雑な過程を整理するために、

重みづけ(ニュースが出来事のどのような側面に重点を置いているか)、因果関係(出来事について何を原因・結果としているか)、

登場人物の属性(登場人物をどのような属性を持つ存在として描いているか)という3つの視点から、ディスコースの要素を検討すると、特定の考え方を構築している仕組みがわかりやすくなることがわかった。

これらの視点から、ディスコースの要素の相互作用によって、特定の考え方を構築していることを分析することの有用性を整理すると、以下のようにまとめることができた。

(1) 3つの視点からみた、ディスコースの要素による考え方の枠組みの構築

重みづけ

ディスコースの各要素は出来事の重みづけをすることで、特定の解釈の枠組みを構築していた。具体的には、アンカーの解説やインタビューの言葉による詳細な情報、ニュースの話の展開、特定の側面を強調する働きをする語彙・語法、特定の側面を目立たせるテロップや映像などで、選ばれた部分を重みづけしていた。そのために、それ以外の部分は背景化されたり排除された状態で、出来事を見る考え方が作られていた。

因果関係

ディスコースの各要素は因果関係を表し、特定の解釈の枠組みを作っていた。具体的には、出来事に関する情報の選択、話の展開、因果関係を表す語彙・語法により、特定の因果関係が作られていた。その結果、別の立場からみれば限定的な因果関係が示されているにもかかわらず、ニュースの中で描かれた特定の因果関係が唯一のものであるような考え方の枠組みが作られていた。

属性

ディスコースの各要素は、登場人物の属性を描くことで、特定の解釈の枠組みを構築していた。具体的には、アンカーの解説やインタビューなどの情報の選択、話の展開、語彙・語法、映像などで登場人物の属性を描写していた。ニュースに登場する各存在は本来は多面的な属性を持つが、そうした多面性が伝えられておらず、バランスのとれた見方で描かれていないことで、人物をみる特定の見方が作られていることがわかった。

(2) 3つの視点による考え方の枠組みの検討

以上の3つの視点からニュースの考え方の枠組みを検討すると、そこでどのような考え方がどのように作られているかを読み取ることができた。そして、3つの視点を使って

ニュースで構築されている考え方を検討すると、作られている考え方が一面的なものであり、他の見方を排除していることを明確にすることができた。

ニュースが報道する社会問題について、特定の側面を特定の見方から問題として描いて強調することで、本質的な問題点を指摘することがないままになっていることが読み取れた。ある立場を重視する一方で、他の立場を公平に扱わず、軽視するという考え方が作られていることが言語的根拠をもって指摘できた。

(3) 3つの視点の細分化

3つの視点を整理すると、重みづけについては、特定の部分が増大され、繰り返し強調される一方で、別の部分が軽く扱われ、または、全く存在することがないものとして扱われていた。

因果関係については、原因と結果が入れ替わり、因果関係が逆転するような描写がされていた。また、大きな時間の流れで起こっている出来事の因果関係の一部分である出来事だけが取り上げられ、他の因果関係が背景化され、または消去され、限定的な因果関係が強調されていた。

登場人物の属性については、人々の多面的な姿は伝えられず、一部の側面だけが伝えられ、限定された一面的な描き方がされていた。また、人々が問題を抱えた存在、主体的な主張のない存在として扱われるなど属性が変形されていた。このような登場人物の個別の属性だけでなく、登場人物間の関係についても、本来は関連し、つながっている存在が分離しているように描写されるなど、変形されていた。

以上のように、3つの視点は、重みづけにおいては、ある部分の増強、別の部分の減弱・削除、因果関係においては、原因と結果の逆転、因果関係の限定、登場人物の属性においては、一面的描写、属性の変形、と細分化できた。このように細分化していくことで、ニュースが出来事の解釈の枠組みをどのように構築しているか、その解釈の前提となっている考え方の枠組みにどのような問題があるかを詳細に検討できるようになっていくと考えられた。

(4) まとめ

以上のように、ディスコースの言語的・非言語的要素によるイデオロギー構築の相互作用を、3つの視点から分析することで、ニュースの表している考え方の枠組みを包括的に分析することが可能になり、言語的根拠を持って指摘することができるようになった。さらに、3つの視点からみることで、分析によって明らかになったニュースの表す考え方の枠組みを検討し、その考え方が社会問題の本質的な解決のために有用なものかを多面的に考察することが可能となった。

本研究が示唆するように、ニュースが構築している考え方は1つの要素だけを吟味するのではなく、多様な要素を総合的にみて、そのニュースの言語的要素・非言語的要素が一貫して同じことを言っているのを見ることが必要である。しかし、一つのニュースだけでも、その言語的・非言語的要素は多様であり、その分析は複雑なものとなる。そうしたとき、本研究が提案するような3つの視点からディスコースの要素を分析することは、より確実に安定した分析を可能にすると考えられる。こうした視点をさらに細分化していくことが必要である。

今回は、日本と英国の公共放送と民間放送を分析の対象としたが、今後は民間放送の分析対象を広げて、これらを多層的に比較検討することで、ニュースがイデオロギーを構築する仕組みがより多面的に明らかにできると予想され、さらに分析対象を広げていくことが必要だと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

糟屋美千子・テレビニュースにおける人間・経済・社会の表象 - 「TPP 大筋合意」の報道のクリティカル・ディスコース分析・社会言語科学会第37回大会発表論文集・(査読無) 2016. pp.158-161.

糟屋美千子・テレビニュースは人々の抗議行動をどう描いたか - 沖縄普天間基地移設計画に伴う環境影響評価書に関するニュースのディスコース分析・兵庫県立大学環境人間学部研究報告・(査読有) 16号・2014. pp.23-38.

〔学会発表〕(計 2 件)

糟屋美千子・テレビニュースにおける人間・経済・社会の表象 - 「TPP 大筋合意」の報道のクリティカル・ディスコース分析・社会言語科学会第37回大会・2016年3月20日・日本大学文理学部(東京都世田谷区)

Michiko Kasuya. Constructing interpretive frameworks: Discourse of Japan's public and commercial broadcasting news. 5th International Conference on Critical Approaches to Discourse Analysis Across Disciplines (CADAAD 2014). 2014.09.02. ELTE. ブダペスト(ハンガリー)

6. 研究組織

(1)研究代表者

糟屋美千子 (KASUYA, Michiko)

兵庫県立大学・環境人間学部・准教授

研究者番号: 20514433